

7年間、60億<sup>キ</sup>の旅を終えた小惑星探査機「はやぶさ」が、「はやぶさ遙かなる帰還」との題名で映画化された。

2010年、小惑星イトカワから微粒子を持ち帰ったカプセルの小さな雄姿を目の当たりにし、涙が出るほど感激したことがある。競って核開発や有人宇宙飛行を目指す大国と一線を画し、小惑星に探査機を着陸させるという、とてつもなく清楚で精緻な日本人のロマンや夢の持ち方に、大いに誇りを感じたからだ。

日本人が世界に誇れるものに、もう一つ国民皆保険制度を挙げておきたい。素晴らしい制度だ。

2000年にWHO（世界保健機関）が新たな健康指標として公表した健康寿命において、日本は男女とも5年連続で世界第1位である。

世界最高水準の医療が、実は医師や、看護師らコメディカルの血のこじむような努力の下に、とんでもなく低コストで

## 日本人の誇り

光生病院理事長兼院長

佐能 量雄

## 一日一題

実現されていることを忘れないでほしい。少ない予算でのこの成果はやはり、はやぶさに匹敵する奇跡的な業績だと思っている。

今、日本の医療提供体制は、大きく変わろうとしている。日々進歩する治療技術、複雑な病態、高齢化に対応するために医療施設間の役割が分担され、病院同士の連携、病院と診療所や介護施設の連携が重要となっている。

その医療連携のため、岡山県も地域医療再生基金を生かしてIT化を進め、ネットワークを構築する計画だ。画像や検査データ、処方箋などの電子カルテの診療情報が病院と診療所でリアルタイムに共有できるシステムを検討している。重複診療がなくなり、自宅でも病院と同じ医療が受けられるようになる日も近い。医療福祉の先進都市・岡山に誇れるものとして大いに楽しみにしたい。

2012.2.23